

## 医療系廃棄物の出し方

在宅医療による医療廃棄物のうち、注射器や注射針、輸液・透析用チューブ類など感染性を有するものはごみ集積所には出せません。

これらは、医師会や薬剤師会の指導のもとに医療機関や薬局で引き取ります。



### 1. 医療機関等による処理

在宅医療をしている人は、使用した注射針等を、かかりつけの病院で引き取ってもらってください。

(例)注射針、注射筒、チューブ、カテーテル類、腹膜透析パックなど

### 2. 薬局による処理

薬局から処方せんにより受け取り、使用した注射針等は、利用している薬局に相談してください(回収薬局を教えてください)。

(例)注射針、注射筒、チューブ、カテーテル類など

### 3. 家庭等による処理(非感染性在宅医療廃棄物)

家庭から感染性を有しない医療廃棄物を排出する場合は、分別して指定された日に出してください。

(例1)紙おむつ、人工肛門パック、ガーゼ・脱脂綿(非感染性に限る)など

**燃やせるごみの日** \*汚物は取り除く。

(例2)薬の外箱、梱包材、容器で紙製のもの

**かみの日「紙製容器包装」**

(例3)薬の外箱、梱包材、容器でプラスチック製のもの

**プラスチック容器の日**

(例4)消毒薬等の空びん

**ビンの日「リサイクルできないもの」**

## ごみの分け方・出し方 リーフレット外国語版

市内にお住まいの外国人の皆さんが理解しやすいように、ごみの分け方・出し方リーフレットを4カ国語(下の種類)で作成しました。クリーン課、市民部市民サービス課、大仁支所市民サービス課で配布しています。ぜひご利用ください。



英語版 中国語版 韓国語版 ポルトガル語版

問合せ クリーン課 電話 055 949 6805

## みんなの廃棄物処理

この施設基本構想は、あくまでも、二市における施設整備の基本的な考え方をまとめたものです。施設整備にあたっての、処理方式・施設規模・施設配置など詳細な計画については、今後策定される施設基本計画で決定されていきます。

## 新ごみ処理施設の構想

### 経済性のメリット

施設建設費の削減、用地取得費の削減、運営費(人件費)の削減など

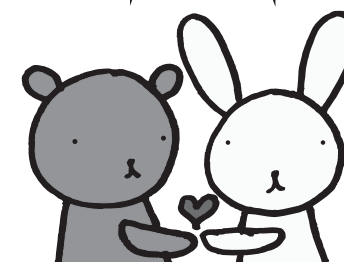


### 環境性のメリット

ダイオキシン類の大幅削減、使用電力など省エネルギー化、地球温暖化物質(二酸化炭素)の削減



二市が共同で新しいごみ処理施設を作れば、環境にやさしくなったり、お金が節約できたり、いいこといっぱいだね。



### 処理対象物

**可燃ごみ** 両市から排出される家庭系・事業系の可燃ごみ、資源化施設からの残さなど  
**災害ごみ** 地震などの災害時に発生する倒木や畳など  
**その他** 両市管内の河川堤防の除草、街路樹などの剪定枝、長岡し尿処理場・伊豆市清掃センターし尿処理施設、土肥衛生プラントからの脱水汚泥

### 必要施設規模

85 t/日(ごみの減量化目標値より推計)  
処理対象物・処理対象量を精査し、施設規模を最終決定します。

### 整備計画期間

平成19年度～平成24年度(6年間)

### モデル処理システム

可燃ごみの処理方法の暫定案として、処理対象である可燃ごみ等を確実に処理できることや環境性・安全性等に優れた施設であること、循環型社会へ貢献できることから『焼却施設+灰溶融施設』、『ガス化溶融施設』を暫定案として選定しました。

### エネルギー利用計画

ごみ処理に伴う廃熱の有効利用として、新ごみ処理施設からの余熱利用 15.4 GJ/h\*程度が見込まれます。このエネルギーの具体的な利用方法については今後検討していきます。

### 周辺住民利用施設の検討

ごみ処理施設建設地周辺の住民に対する地域還元として、地域住民に利用してもらえる付帯施設について、地元の要望を踏まえながら、建設を検討します。

### 溶融処理

現在可燃ごみは、焼却施設で処理された後、焼却灰となり、最終処分場に埋立てられています。新ごみ処理施設では最終処分量の低減・資源化の向上を図るため、溶融処理を行います。

\* Jとはエネルギー、熱量等の単位です。1 Jは、地球上でおよそ102 t(小さなリンゴくらいの重さ)の物体を1 m持ち上げる仕事に相当します。1 GJ/hは、1時間あたりにその10億倍のエネルギーが発生するということです。

問合せ 広域廃棄物処理対策室 電話 055 949 8112